

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 12 日現在

機関番号：14701

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25770266

研究課題名(和文) 帝政期ドイツの帝国議会における選挙違反行為の実態分析とミリュー論の再検討

研究課題名(英文) analysis about the situation of the electoral frauds in German Reichstag's elections and reconsideration about the milieu theory

研究代表者

小原 淳(OBARA, Jun)

和歌山大学・教育学部・准教授

研究者番号：20386577

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、帝政期(1871-1918)の帝国議会選挙に際しての選挙違反行為の実態分析を行い、それをつうじてミリュー論の再検討を行った。その成果は、以下の四点に整理できる。第一に、帝国議会選挙に関する膨大な量の先行研究の意義と問題点を指摘したうえで、ミリュー論の再検討のための方途を提起した。第二に、帝国議会選挙の具体的な事例や、ミリュー構造の成立と変化のメカニズムを検討した。第三に、本研究を含む研究領域の国際的な動向を紹介した。第四に、ドイツ政治史の国際比較の方策を模索した。

研究成果の概要(英文)：In this study, I analysed about the situation of the electoral frauds in German Reichstag's elections (1871-1918). Through this, I also reconsidered about the milieu theory. As a result, my study had four outcomes. First, I researched the merits and problems of previous works, and suggested the way to reconsider the milieu theory. Second, I investigated the practices of the electoral frauds in German Reichstag's elections and mechanism of the establishing and transforming of the milieu-structure. Third, I introduced the related studies in USA and european countries. Fourth, I tried to find the way to international comparison of german political history.

研究分野：西洋史

キーワード：ドイツ 帝政期 帝国議会 ビスマルク ミリュー論 政治文化

## 1. 研究開始当初の背景

近現代ドイツの政治的、社会的構造を説明するモデルとしてこれまで最も広く受容されてきたのが「ミリュウ論」である。この理論は、ドイツ帝国を、西部・南部地域のカトリック陣営、都市部・労働者層の社会主義陣営、都市部・中上層市民の自由主義陣営、そして農村部の保守陣営の4つに分類したうえで、この4類型が政治のみならず生活様式や文化的志向の点でも帝国住民の分裂的傾向を規定しており、各陣営間の対立がドイツ社会の民主化の阻害要因となったとする。しかし、報告者はこれまでの自らの研究をつうじて、伝統的な共同体性格が色濃く残存していた地域社会の次元では、産業化を経た1860年代以降も各陣営間の境界が流動的であったこと、またナショナリズムの高揚が陣営間の対立を解消するような役割を果たしたことを確認しており、ミリュウ論には批判的な再検討が不可欠であると考えた。

そこで本研究は、帝政期(1871-1918)の帝国議会選挙における選挙違反行為の実態分析を課題とした。ドイツでは、北ドイツ連邦の創設以来(1868年)、25歳以上の男性を対象とする普通選挙制度が全国規模で施行され、これは世界的にも非常に早期の試みであった。しかし、それまで国政に関与する権利がなかった民衆層が唐突に選挙権を獲得したために、地縁や血縁、身分制的社会関係、宗派、経済的利害といった要素が、投票行動に影響を及ぼすケースも少なくなかった。選挙違反の事例に関する史料には、こうした諸要素が実際にどのようなかたちで政治行動に作用していたのが克明に示されており、静態的なミリュウ論を再考するための格好の材料となりうる。

## 2. 研究の目的

帝国議会選挙は、我が国にあっては未だ

に本格的な研究に乏しいが、ドイツ本国では古典的な研究領域である。しかし、選挙制度や選挙結果については膨大な蓄積があるのに対して、選挙に際して有権者がどのような行動をとったのか、地域社会にいかなる政治力学が働いたのか、またそうしたことをふまえて当時のドイツの政治風土をどのように解釈すべきかといった問題に踏み込んだ議論は不十分で、とりわけ選挙違反行為の考察は僅少である。

そこで、研究期間中は、研究の過程で得られた知見をもとに、研究を開始した当初の目標に修正を加えつつ、とくに以下の3つの点の解明を目標とした。第一に、帝国議会選挙に関して行われた膨大な先行研究の把握と、それらのなかでの選挙違反研究がもたらした有効性と問題点の確認、そして帝政期全体をつうじての、全国規模での、選挙違反行為の総体的な把握。第二に、選挙違反行為の背景にある、地域社会内部の政治的力学関係や、政治行動のパターンの解明。第三に、ここまでの考察を統合したうえでの、ミリュウ論の再検討。

## 3. 研究の方法

本研究は、先行研究からの引用や単なる整理による立論ではなく、未刊行のものも含む多様な史料の分析をつうじた実証的な歴史研究の手法を採用し、とくに、選挙の度に各選挙区の選挙民から帝国議会に提出された、再選挙を求める請願書と委員会の調査報告を分析の対象とした。

さらに、研究を進行させる過程で、本研究に関連のある政治史、社会史的研究の海外での成果が十分に摂取されていないことを認識し、それらの訳出、紹介による、我が国での議論の活性化にも努めた。

## 4. 研究成果

本研究の成果は、以下の四点に整理でき



小原 淳、国民形成と身体文化 近代ドイツ政治史・社会史の視点から、スポーツ史学会第 27 回大会シンポジウム報告書『ドイツスポーツ史研究の今日的課題』、査読無、2014 年 3 月、12-21

小原 淳、ナッハメルツの革命家群像、ゲシヒテ、査読有、7、2014 年 3 月、3-17

〔学会発表〕(計 4 件)

小原 淳、Rethinking the dichotomy of nationalism、早稲田大学高等研究所・早稲田大学ヨーロッパ文明史研究所国際シンポジウム Rethinking nationalism and national identity in modern Europe、2016 年 10 月 22 日、早稲田大学

小原 淳、オスマン帝国の軍制改革と近代化への問い ドイツ史の視点から、早稲田大学高等研究所 ギュルテキン・ユルドゥズ氏講演会、2016 年 7 月 23 日、早稲田大学

小原 淳、帝政期ドイツにおける戦争の記憶とナショナリズム、早稲田大学西洋史研究会第 67 回大会、2015 年 12 月 19 日、早稲田大学

小原 淳、国民形成と身体文化、日本スポーツ史学会第 27 回大会・公開シンポジウム、2013 年 11 月 30 日、東洋大学

〔図書〕(計 8 件)

小原 淳(訳)、クリストファー・クラーク『夢遊病患者たち 1 第一次世界大戦はいかにして始まったか』、みすず書房 2017 年 1 月、432 頁

小原 淳(訳)、クリストファー・クラーク『夢遊病患者たち 2 第一次世界大戦はいかにして始まったか』、みすず書房 2017 年 1 月、576 頁

小原 淳、<三月>の記憶 19 世紀後半ドイツにおける 1848/49 年革命の顕彰と政治文化』、大内宏一編『ヨーロッパ史のなかの思想』所収、彩流社、2016 年 3 月、総 364(161~184)頁

小原 淳(訳)、ジョナサン・スパーバー『マルクス(上): ある十九世紀人の生涯』、白水社、2015 年 6 月、380 頁

小原 淳(訳)、ジョナサン・スパーバー『マルクス(下): ある十九世紀人の生涯』、白水社、2015 年 6 月、380 頁

小原 淳(訳)、ジョナサン スタインバーグ『ビスマルク(上)』、白水社、2013 年 8 月、

470 頁

小原 淳(訳)、ジョナサン スタインバーグ『ビスマルク(下)』、白水社、2013 年 8 月、440 頁

小原 淳、「革命体験と市民社会 初期『ガルトンラウベ』と E・カイルを中心に」森原隆編『ヨーロッパ・「共生」の政治文化史』所収、成文堂、2013 年 4 月、総 404(228~250) 頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小原 淳(OBARA Jun)  
和歌山大学・教育学部・准教授  
研究者番号：20386577

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：

(4) 研究協力者

( )